



案ずるより産むがやすし

中国中央病院
産婦人科病棟
2023年5月

野山の緑も鮮やかさを増し、爽やかな風が吹き渡る季節となりました。

Vol. 300



青空を悠々と泳ぐ、鯉のぼりのように、お子様がすこやかに成長されることを願っています。

今回は当院でも4月から導入されたNIPT（非侵襲性出生前遺伝学検査）についてのお話です。



NIPTってなに？



出産前におなかの赤ちゃんが染色体疾患を持っているかどうかを確実に検査する方法として羊水検査や絨毛検査があります。これらは子宮に針を刺す検査になるため、流産などの危険性を伴う検査となります。

NIPT（非侵襲性出生前遺伝学検査）は母親の血液から赤ちゃんの染色体疾患を持つ可能性を検査する方法になります。

※本検査は自己負担の検査となります。産婦人科外来窓口でお問い合わせください。



どんな検査をするの？

妊娠 11-14 週の妊婦さんから 10-20ml の血液を採取して、血液中に浮遊している胎児の DNA を分析して結果を出します。



何がわかるの？

21 トリソミー、18 トリソミー、13 トリソミーの3つの染色体疾患を検出する検査です。

結果の判定は？

検査結果が出るまでには約 2 週間かかります。結果は「陽性」「陰性」または「判定保留」と報告されます。「陽性」とはその疾患の可能性が高いという意味です。結果判定が「陽性」の場合には、羊水検査によって結果を確定させることができます。また、「判定保留」の場合には、その後の対応について再度相談する必要があります。

染色体異常をはじめ、先天性疾患を持った赤ちゃんが生まれる頻度は 20~30 人に 1 人とされています。また、先天性疾患がなくても、他の様々な病気や事故により医療的ケアを必要としたり、障害を持つお子さんもいます。NIPT の検査を受けることにより、赤ちゃんに何らかの先天性疾患があることが分かったとしても、お子さんや子育てを支える様々な医療や公的サービスがあり、またお子さんの先天性疾患をそのお子さんの持つ個性の一つとして、大切に育てていらっしゃる多くのご家族や助け合える地域社会もあるということを中心にとめておいてください。

出生前検査を受ける前には、検査結果によってはどういう選択が考えられるのかをご自身とパートナーのお二人でよく話し合ってください。産婦人科医師による遺伝カウンセリングを行い、サポートさせていただきます。詳しくは産婦人科外来でお問い合わせください。



●母親学級のご案内●

前期：5月17日 後期：5月10日 24日

前期：6月7日 後期：6月14日 28日

※後期の病棟案内はありません。 ※赤字は日程を変更しています。

参加人数の制限はありません。外来予約ノートに記入してください。

キャンセルされる場合の連絡は不要です。 ※5月の母親学級よりご家族の付き

添いが可能となります（ただし、18歳未満のお子様は同伴できません）

